

IPv4枯渇に向けて

～コンテンツ事業者はどうすればよい？～

2009/7/9

株式会社日本経済新聞社

一木 宏行

コンテンツ提供者としての 基本的な考え方

- 既存顧客の「満足感」を守りたい
 - あらゆるレイヤーで確実にコンテンツを届ける
- コンテンツをあまねく浸透させたい(リーチの拡大)
 - 社会の公器としての責務を果たすことにつながる
 - ビジネス的には媒体価値が上がる＝広告単価のアップ
- 多くのユーザにコンテンツを受け取ってもらい続けるためには...

コンテンツ提供者としての 基本的な考え方 (cont'd)

- 常に、ユーザ環境にあわせて、配信環境やシステム、コンテンツを変化させていく必要がある
 - ユーザの使用ブラウザの変化に追随
 - ユーザのアクセス回線の大容量化への対応
 - デバイスの多様化 → 携帯、iphone ...

そして

IPv4アドレス枯渇期のユーザ環境の変化に対しては...

IPv4枯渇期に向け

- 日経の場合、今後の拡張などでIPv4アドレスが枯渇する心配は当面ないが....
 - 歴史的PIアドレスで配信環境を構築しているため
- エンドユーザ側の環境変化への対応を検討/実施
 - LSN配下のユーザの増加
 - 専ら(あるいは主に)IPv6を使用するユーザの増加
 - IPv6メインのユーザがある一定のレベルに達したところで、IPv6の非公式サポート⇒公式サポートを行っていく
 - 基準については今後検討

実際のアクションとしては...

- IPv4枯渇の影響によってユーザ環境が変化したときに、迅速に対応できるように準備を開始することを決定(2008年末)
- MFさんとの実験を通して、**現ユーザに影響を与えずにIPv6でのコンテンツサービスをサポート**する方法の検討および検証
 - サービスURLの検討
 - システム的な構成
 - など

